

～大切な命を守るために～

基本情報

ハザードマップ

避難場所等一覧

風水害対策

地震対策

突風・大雪対策

持出品・備蓄品

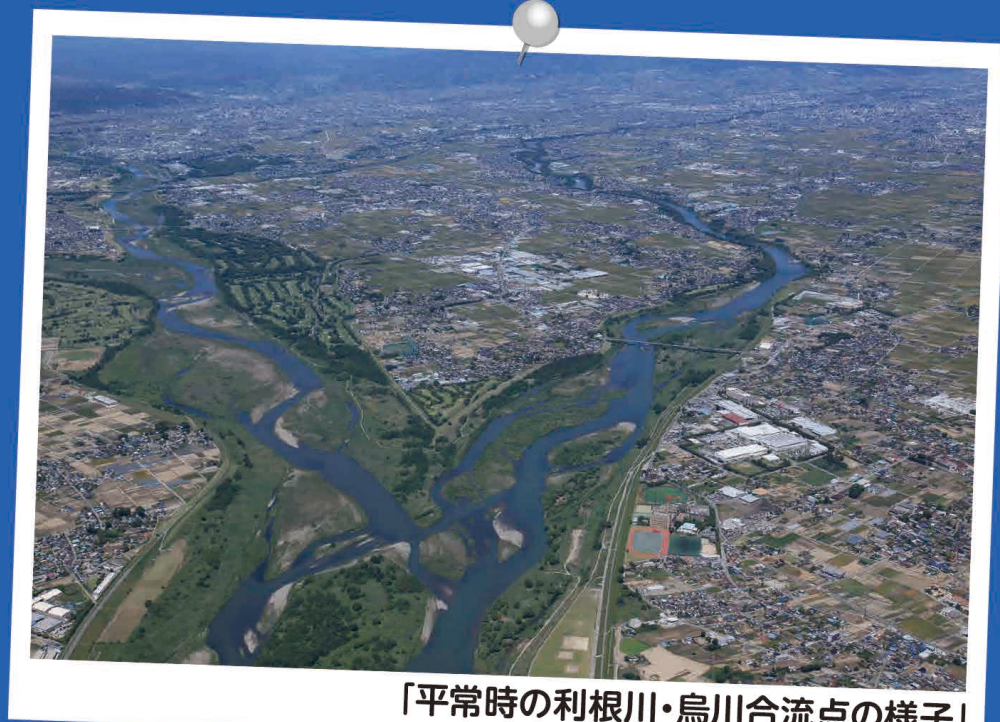
令和元年
東日本台風(台風第19号)
利根川・烏川合流点の様子
(令和元年10月13日撮影)

保存版

Tamamura Town

玉村町

さまざまな災害に備えましょう



「平常時の利根川・烏川合流点の様子」

総合防災マップ

Disaster Preparedness General Map

[写真提供 国土交通省利根川上流河川事務所]

情報収集方法

◆たまむらお知らせメールサービス「メルたま」に登録をしましょう!

登録した携帯電話やスマートフォン、パソコンのメールアドレスへ一斉に防災情報(災害などに関する情報・その他) 気象情報(注意報、警報、特別警報)、国民保護情報、竜巻注意情報等を送信するサービスです。

◆登録方法◆

- (1) [merutama@pasmal.jp] へ空メールを送信してください。
(二次元コード対応機種については、右の二次元コードを読み取ると便利です。)
・件名や本文は空白で送信してください。
・メールの受信制限をしているかたは、[tomail@pasmal.jp]からのメールを受信できるように設定してください。
- (2) メルたま登録用メールが届きますので、登録用URLに接続してください。
- (3) 登録画面にて希望する情報やエリアなどを選択し、利用規約を確認いただき、同意の上登録してください。
- (4) 登録結果画面が表示されれば、登録完了となります。



災害情報一斉送信システム「たまボイス」

災害時の避難情報などの緊急情報をご自宅の固定電話・携帯電話に直接、自動音声メッセージでお知らせするシステムです。

町からの情報は、**[050-3204-1700]**の番号から発信します。

電子メールやインターネットを利用しない方でも、お持ちの固定電話や携帯電話で、音声メッセージによる災害等の情報を聞くことができます。災害情報の迅速な入手と確実な避難のために、ぜひご利用ください。

※事前の登録が必要になります。(https://www.town.tamamura.lg.jp/docs/2021042100020/)

※水害など、予兆をとらえ避難行動がとれる状況の場合に配信します。地震など、予兆がない災害に対しては配信できません。



◆情報を集めましょう◆

テレビ

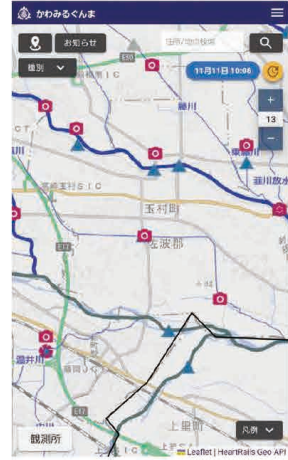
- ①NHKや群馬テレビなどを見てリモコンのdボタンを押す
- ②「防災・生活情報」を選択する

災害情報が確認できます



かわみるぐんま

河川に設置されたライブカメラ、河川の水位観測データ、雨量観測データ、地域の洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域など



気象庁

防災情報、天気、キキクル(危険度分布)、大雨・大雪、地震・火山情報など



あなたの無事を伝えましょう

体験利用日: 『毎月1日および15日』、『3月3日』、『防災週間』、『防災とボランティア週間』

171 災害用伝言ダイヤル

電話を利用して被災地の方の安否情報を確認する「声の伝言板」です。

171にダイヤル

音声ガイダンスによるご案内

録音は 1

再生は 2

音声ガイダンスによるご案内

被災地の方の固定電話または携帯電話・IP電話の番号をダイヤルしてください。なお、固定電話の場合には市外局番から入力して頂く必要があります。

0 - -

音声ガイダンスによるご案内

ガイダンスに従い、録音(再生)

災害用伝言板(パソコン・スマートフォン用)

web 171 災害用伝言板

インターネットを利用して被災地の方の安否情報を確認する「web伝言板」です。

https://www.web171.jp/へ

アクセスまたは「web171」で検索



伝言を登録する被災地の方などの電話番号を入力

説明に従い、

登録/確認

はじめに

近年、全国各地で地震や台風といった大規模な自然災害が発生しています。また、過去に経験したことのないような激しい集中豪雨による洪水被害も発生しています。私たちの住む玉村町も、利根川や烏川が流れていることから、決して災害と無縁な町ではありません。最大震度6強の地震が起こる可能性もあるとされています。



玉村町長 石川 眞男

災害に対する関心が高まる中、町では「総合防災マップ」を改訂し、最新の内容に更新いたしました。

町民の皆様には、この新しい「総合防災マップ」を活用し、いつ起こるかもしれない災害のリスクを知るとともに、日頃から家族や地域の人と話し合うなどして、いざというときに備えてくださいますようお願い申し上げます。

気象変動の影響などにより、毎年のように全国各地で風水害が発生しています。皆さんがお住まいの玉村町でも令和元年台風19号災害時に浸水被害が生じま



群馬大学大学院理工学府
金井 昌信 教授

した。「防災は大事」と思っている人は多いと思いますが、具体的な備えがしっかりできている人はそれほどいないのではないのでしょうか。災害で命をなくさないために、まずは地域に想定されている災害の危険性をしっかり把握してください。そして、各家庭で実行可能な『身の守り方』を具体的に検討してみてください。

(金井教授には3ページの「命を守る行動計画(風水害版)」を監修して頂きました。)

防災・減災の基本「自助・共助・公助」

地震や大雨、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救助・支援「公助」の取り組みが必要です。

自助

- 災害リスクを知ろう
ハザードマップを活用するなどして、自宅や学校、勤務先の災害リスクを知りましょう。
- 災害に備えよう
災害が起こった際の避難先について日頃から考え、必要な持出品・備蓄品を準備しておきましょう。
- 自分の命を守ろう
災害時には自分の命を守ることを最優先にしてください。
- 家族の命を守ろう
自分の命が守れたら、大切な家族を守りましょう。

共助

- 地域を守ろう
自分と家族の命が守れたら、地域のみんで協力して助け合い、自分が暮らす地域の人達を守りましょう。

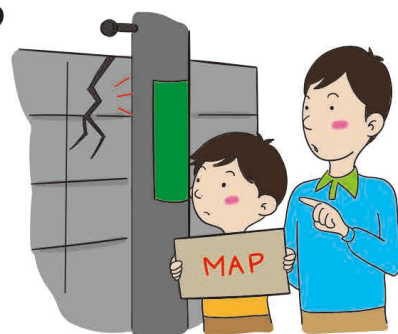
公助

《国・県・町》

- 河川の整備、堤防の強化
- 避難所の開設、避難情報の発信
- 人命救助、ライフラインの復旧・復興
- 自助・共助への支援

総合防災マップの活用方法について

- 1 住んでいる場所や生活する場所の災害リスクを確認しましょう
- 2 避難する場所を確認しましょう
- 3 避難経路を考えてみましょう
- 4 家族やご近所と情報を共有しましょう



水害と玉村町

1910年 (明治43年)	関東大水害	関東地方における死者は769名におよび、玉村町でも甚大な被害をうけたことから「しじゅうさんねんのおおみず」と呼ばれ、長年にわたり人々の記憶に残りました。
1943年 (昭和18年)	大水	現在の玉村町役場周辺の下新田は土地が低く、大水が発生すると、水が溜まることがありました。  玉村八幡宮随神門前通り  玉村町国民学校前通り(現在の玉村小学校前)
1947年 (昭和22年)	カスリーン台風	関東地方における死者数1,100名。玉村町でも複数か所で堤防が決壊し、多くの家屋や農地が浸水の被害を受けました。  烏川に架かる落橋した岩倉橋  飯倉公民館に立つ水位表示
2013年 (平成25年)	台風第18号	 通常時の玉村大橋  増水時の玉村大橋
2019年 (令和元年)	台風第19号	大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した台風第19号の影響により、群馬県内でも非常に激しい雨が降りました。玉村町でも床上、床下浸水が発生したほか、1600人が避難所に避難するなどしました。  岩倉橋の上から見た烏川の様子  玉村ゴルフ場内にて台風の影響を受けたフェンスと流木の様子



玉村町は利根川・烏川といった大きな河川が流れていることもあり、昔から風水害の被害に遭ってきました。大切な命を守るため、5ページからのハザードマップを見て災害に備えましょう。

命を守る行動計画(風水害版)

風水害時に適切なタイミングで避難することはとても難しいものです。まずは逃げ遅れた場合にも生きのびることができるのかを真剣に考えてみましょう。そのうえで、あなたの家庭にあった具体的な避難方法を複数検討しておきましょう。

ステップ1

自宅でやり過ごせるか確認!

- Point1 「敵を知る!」**
浸水想定区域図を見て、自宅に想定されている色(浸水深)を確認
- Point2 「己を知る!」**
自宅の構造(平屋、2階建など)と同居家族(子ども、高齢者、ペットなど)を確認

風水害が発生した場合、自宅にいてもやり過ごせる(命を守れる)と思いますか?

はい

いいえ

自宅周辺にいざというときに逃げ込める「堅牢な高い建物」はありますか?

はい

いいえ

自宅などでやり過ごす場合、想定を超える災害が発生する危険性や色々な不便が生じる可能性があります。そのような危険性や不便を受け入れることはできますか?

はい

いいえ

【とりあえず災害で命をなくさない】だけで大丈夫であれば、自宅でやり過ごすことも選択肢のひとつです。

ステップ2

早い段階で「避難所に避難する方法」を考える

- Point3**
自宅で風水害をやり過ごすことができない場合、避難所などに必ず避難する必要があります



避難所では下記のことが起こりますが、受け入れられますか?

- ① プライバシーは確保できない
- ② 発災直後は物資はない(水・食料・毛布など)
- ③ 不便・不快・不愉快なことが多い
- ④ 自動車の被災(水没など)



はい

いいえ

手ぶらで避難せずに、最低限の水・食料・毛布等持っていける準備をしておきましょう。



「高齢者等避難」「避難指示」が発令された場合、どこに避難しますか?

具体的な施設名

ステップ3

「避難所以外の場所に避難する方法」を考える



- Point4**
避難所での不便や自動車の被災を避けたい人は、さらに早い段階で避難所以外の場所に自動車避難する方法を検討しておきましょう

① 浸水や土砂災害の危険性がない場所に住む親戚や知人宅にお世話になる

- できない
- できる(具体的にどここの誰に?)

② 浸水や土砂災害の危険性がない大型商業施設の駐車場等で車中避難する

- できない
- できる(具体的にどこ?)

③ 浸水や土砂災害の危険性がないホテル等の宿泊施設に避難する

- できない
- できる(具体的にどこ?)

マイ・タイムラインを作ろう

マイ・タイムラインとは、災害の発生時点「0時間(ゼロ・アワー)」から時間をさかのぼり、一人ひとりがとるべき防災行動のタイミングを整理する**行動計画表**です。地域の水害リスクや防災気象情報の入手方法を把握し、それぞれの家族構成や生活環境にあったマイ・タイムラインを作成しましょう。(このページでは、台風による河川の氾濫を想定しています)

マイ・タイムライン 使用時の心得



災害は自然現象であり、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではありません。また、想定したとおりになるとは限りません。

あくまでも行動の目安として認識する

台風の進み方や雨の降り方、水位の上がり方はそのつど異なります。

警報や避難情報等こまめに収集・確認する

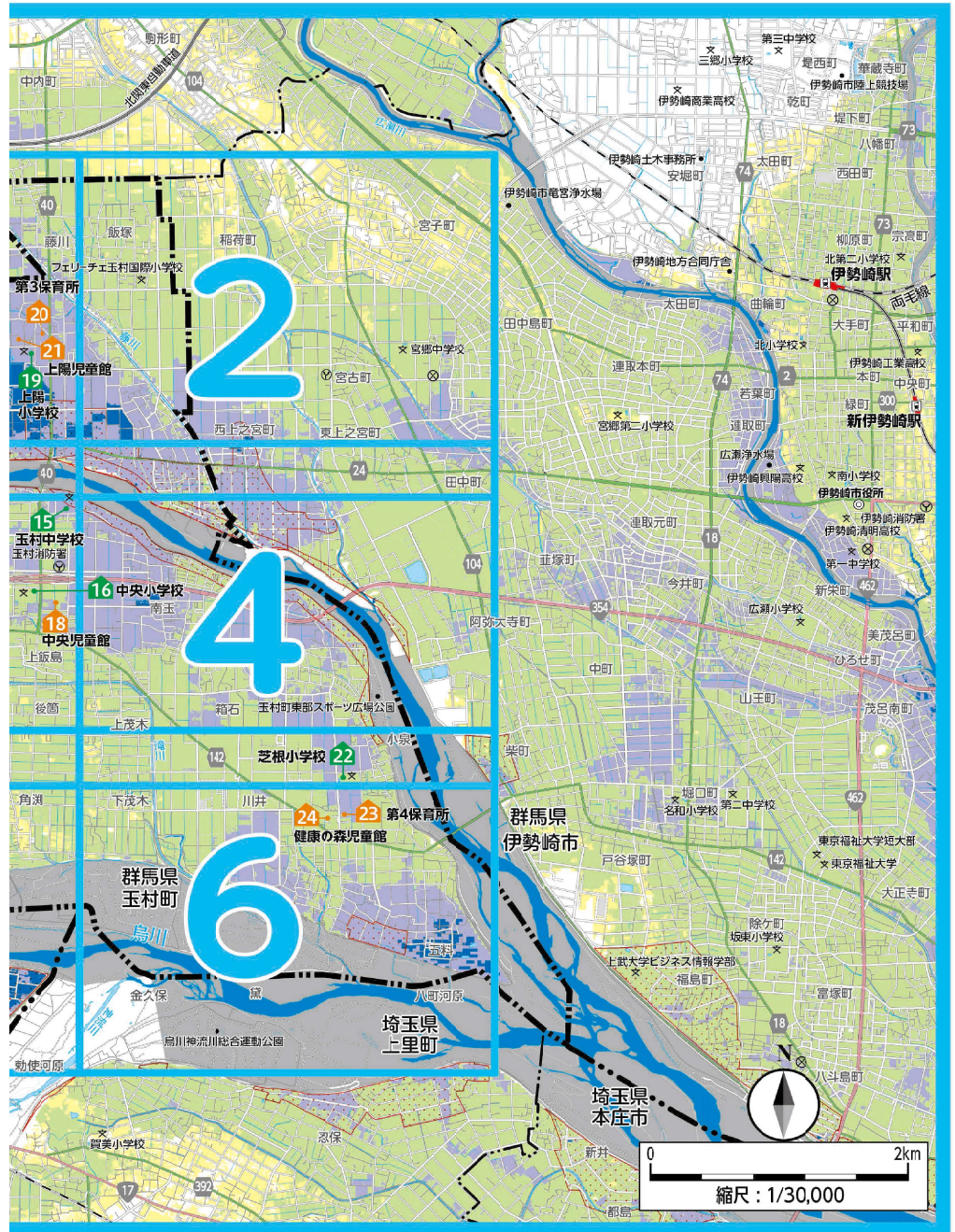
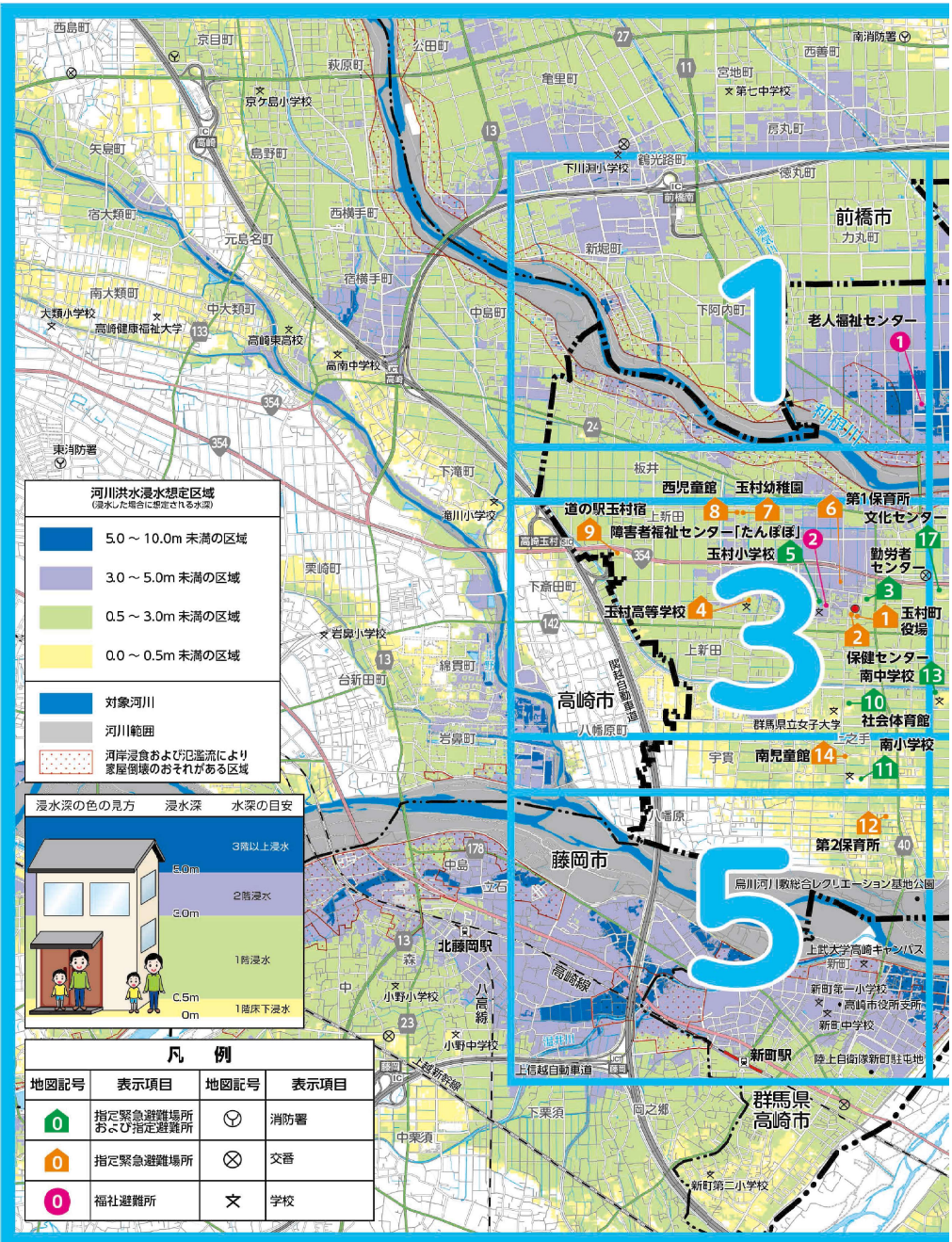
気象警報、洪水予報等は状況に応じて臨機応変に発表・発令されます。

災害発生までの時間	行政から発信される情報 黒: 気象・気象情報 緑: 市区町村	「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまで	わが家の行動計画 右の例を参考に書いてみましょう	《例》主な備えと行動	雨風が強まる前に必要な行動を終わらせる 水位等の状況を把握しつつ時間に応じて避難行動を開始する 身の安全を確保
5日前～	台風に関する気象情報	台風が発生 台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる		・台風の今後を調べ始める ・本書等を見て避難場所、避難手段を確認 ・家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認 ・テレビ、インターネット、メール等で雨や川の様子に注意 ・避難するときに持っていくものを準備する ・家族と連絡を取りあう	
～半日前	大雨注意報・洪水注意報 氾濫注意水位到達	雨が集まって、川の水がだんだん増える 		・住んでいるところと上流の雨の量を調べ始める ・本書等で避難場所、避難手段を再確認 ・川の水位を調べ始める ・避難所が開設しているか、インターネットで確認 ・避難しやすい服装に着替える ・携帯電話、スマートフォンを充電する	
5時間前	避難判断水位到達 警戒レベル3 高齢者等避難を発令	激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる 		・メール等で高齢者等避難を受信 ◎高齢者等は避難開始	
3時間前	氾濫危険水位到達 警戒レベル4 避難指示を発令	川の水があふれそうになり、いつ氾濫してもおかしくない状態 		・メール等で避難指示を受信 ◎安全な場所へ速やかに避難する ◎避難が難しい場合には、自宅内で安全を確保する	
0時間(ゼロ・アワー)	氾濫が発生 警戒レベル5 緊急安全確保を発令	川の水が氾濫 		◎命を守るための最善の行動をとる	

※ 気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間は、イメージで記載しています。避難指示等のタイミングは状況によって異なります。玉村町からの発信情報に注意してください。

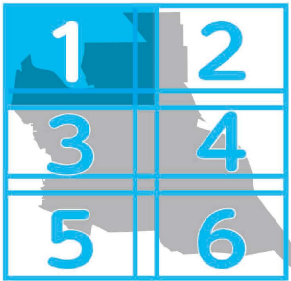
わが家の避難先

全体索引図(最大浸水想定区域図)



※使用ビクター図... JIS Z8210 [鉄道/鉄道版]

1 最大浸水想定区域図



河川洪水浸水想定区域
(浸水した場合に想定される水深)

- 5.0 ~ 0.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

浸水深の色の見方

浸水深 水深の目安

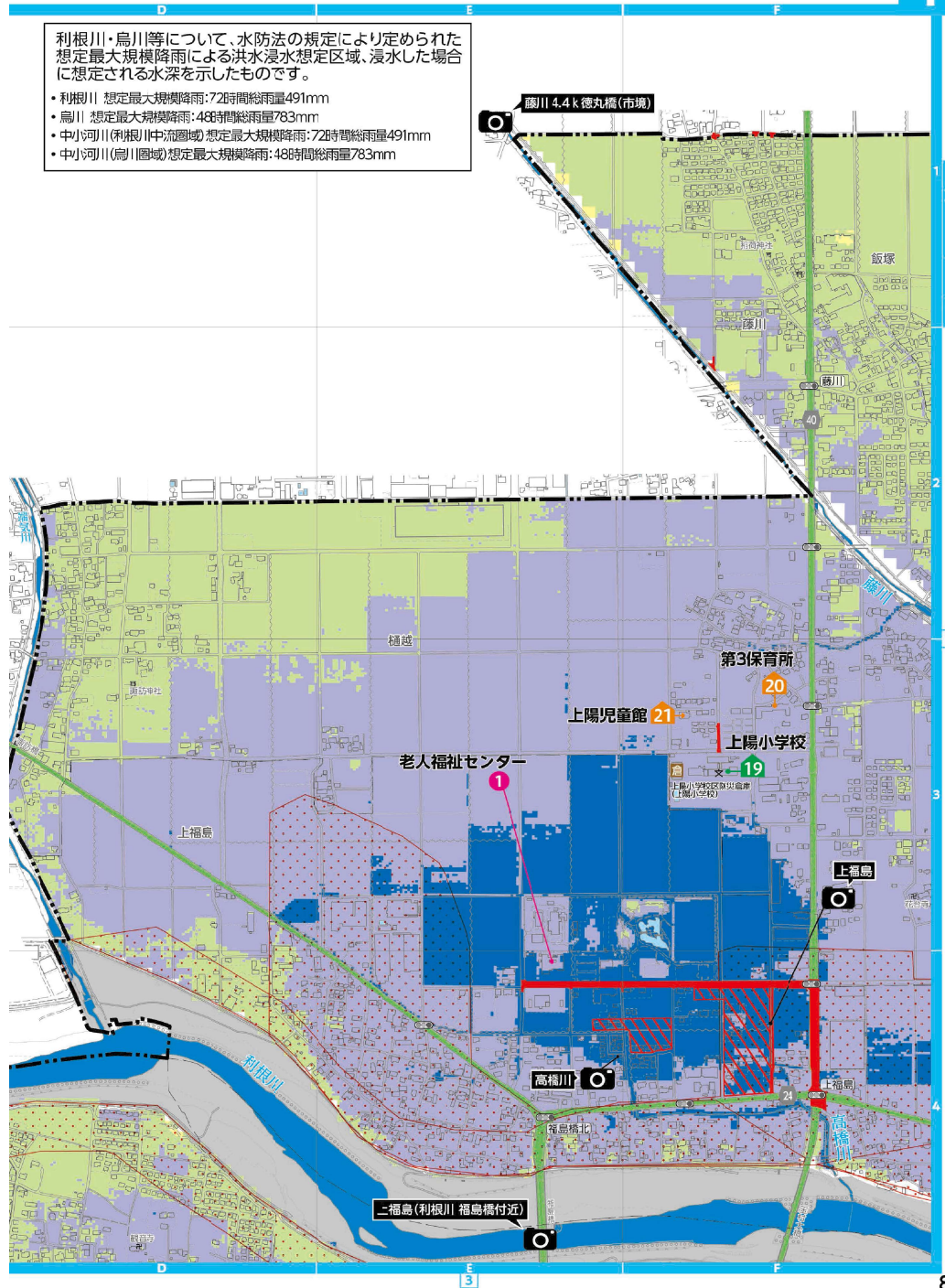
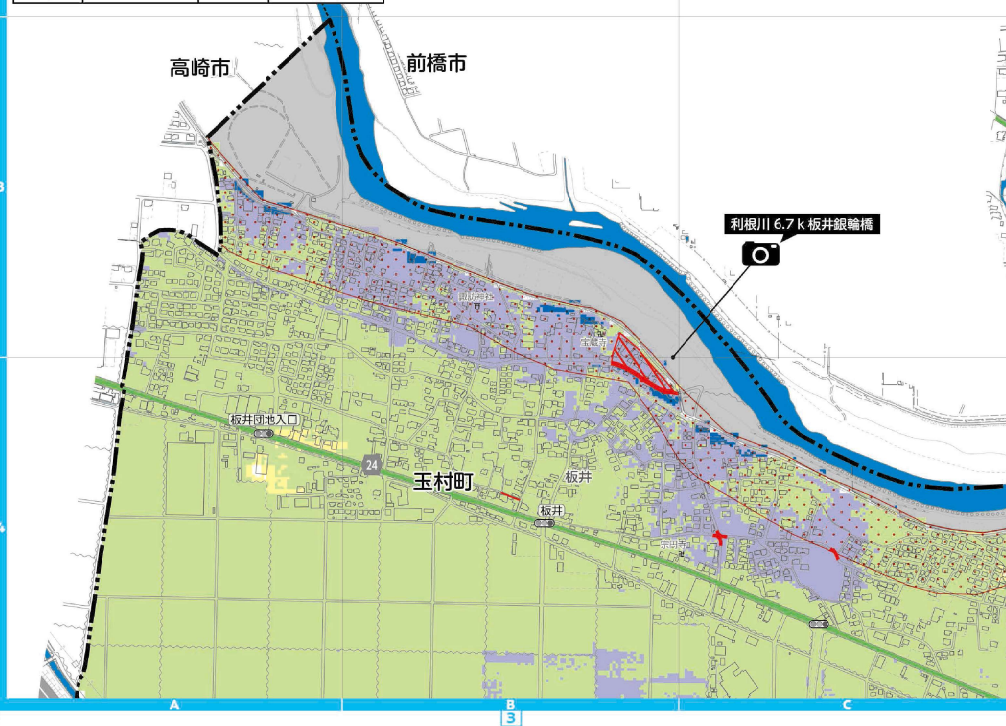
- 3階以上浸水
- 2階浸水
- 1階浸水
- 1階床下浸水

対象河川
河川範囲
河岸浸食および氾濫流により
家屋倒壊のおそれがある区域

凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所 兼指定避難所		河川監視カメラ
	指定緊急避難場所		過去に冠水被害 が発生した道路
	福祉避難所		過去に浸水被害 が発生した場所
	協定締結避難所		消防署
	防災倉庫		交番
	水位観測所		学校

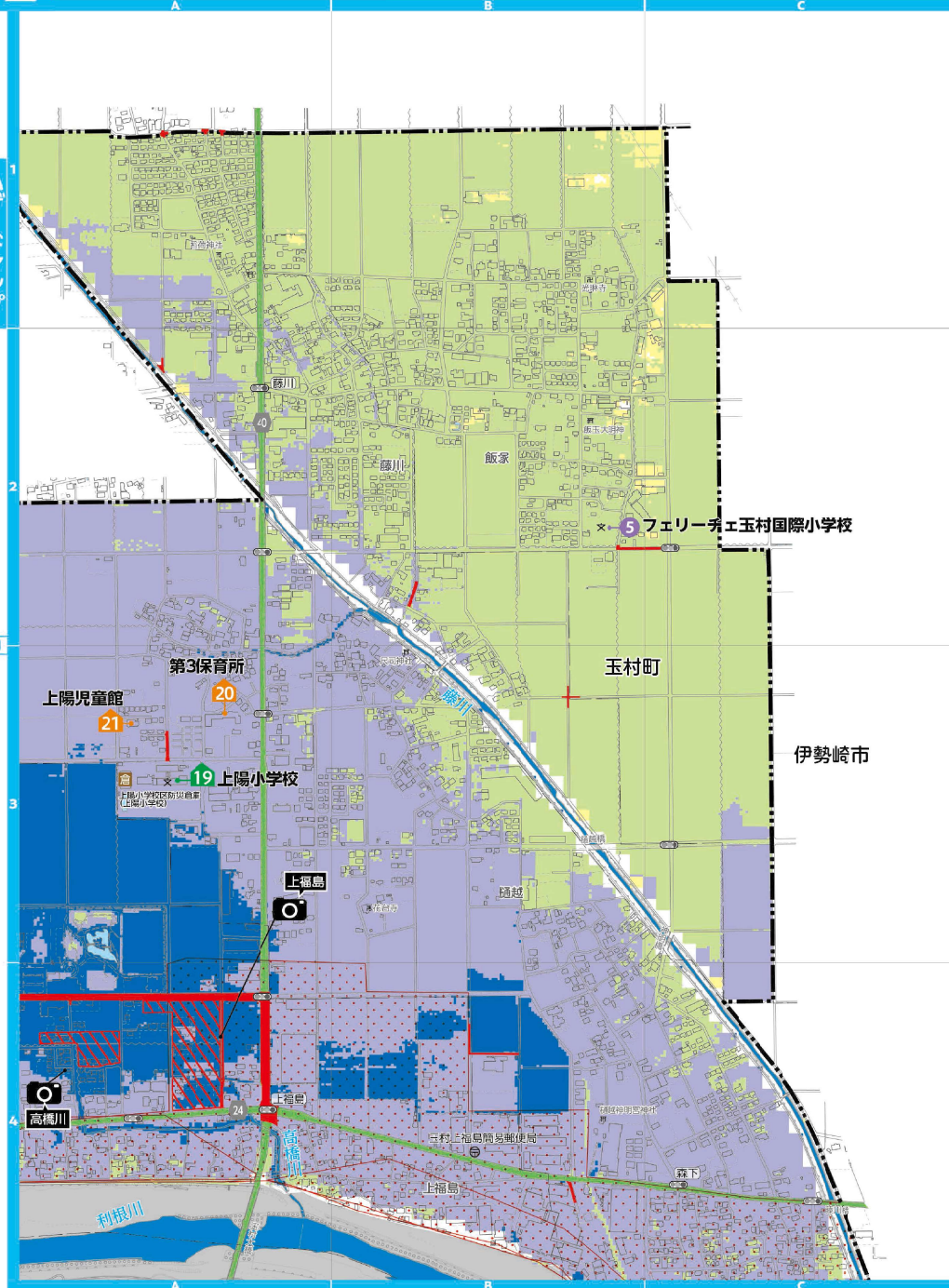
かわみる
くんま

縮尺: 1/8,000



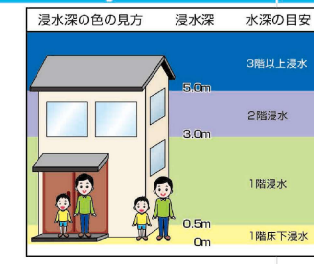
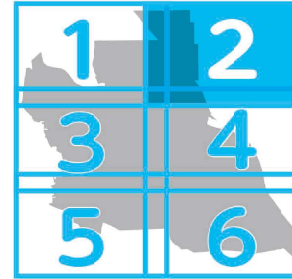
2 最大浸水想定区域図

パシフィック・データ



9 A B C

2



河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合に想定される水深)	
	5.0～10.0m 未満の区域
	3.0～5.0m 未満の区域
	0.5～3.0m 未満の区域
	0.0～0.5m 未満の区域
	対象河川
	河川範囲
	河岸浸食および氾濫流により 家屋倒壊のおそれがある区域

パシフィック・データ

凡例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所 兼指定避難所		河川監視カメラ
	指定緊急避難場所		過去に冠水被害 が発生した道路
	福祉避難所		過去に浸水被害 が発生した場所
	協定締結避難所		消防署
	防災倉庫		交番
	水位観測所		学校



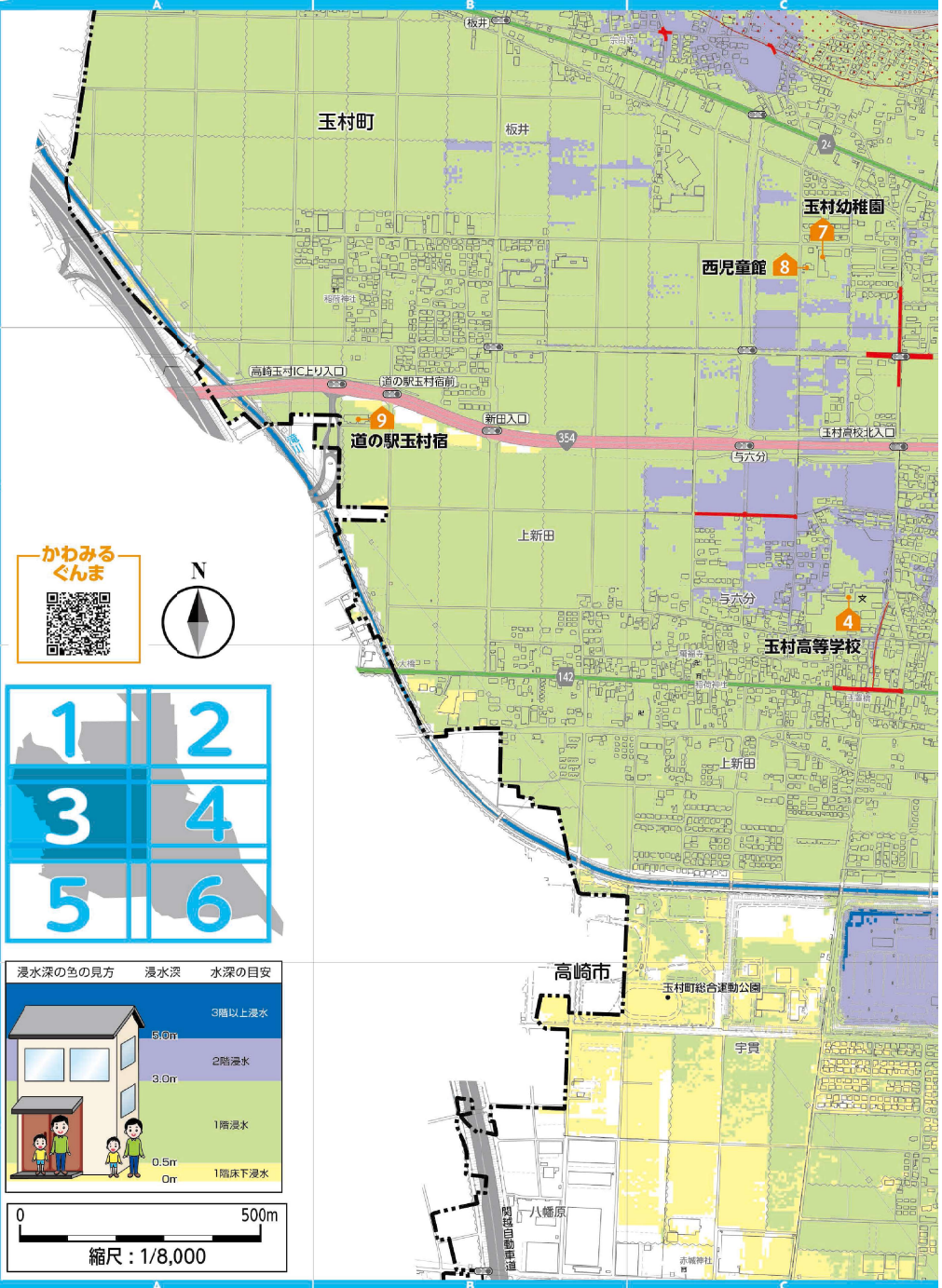
利根川・烏川について、水防法の規定により定められた
想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合
に想定される水深を示したものです。

- 利根川 想定最大規模降雨：72時間総雨量491mm
- 烏川 想定最大規模降雨：48時間総雨量783mm
- 中小河川(利根川中流域) 想定最大規模降雨：72時間総雨量491mm
- 中小河川(烏川圏域) 想定最大規模降雨：48時間総雨量783mm

D E F 9 10

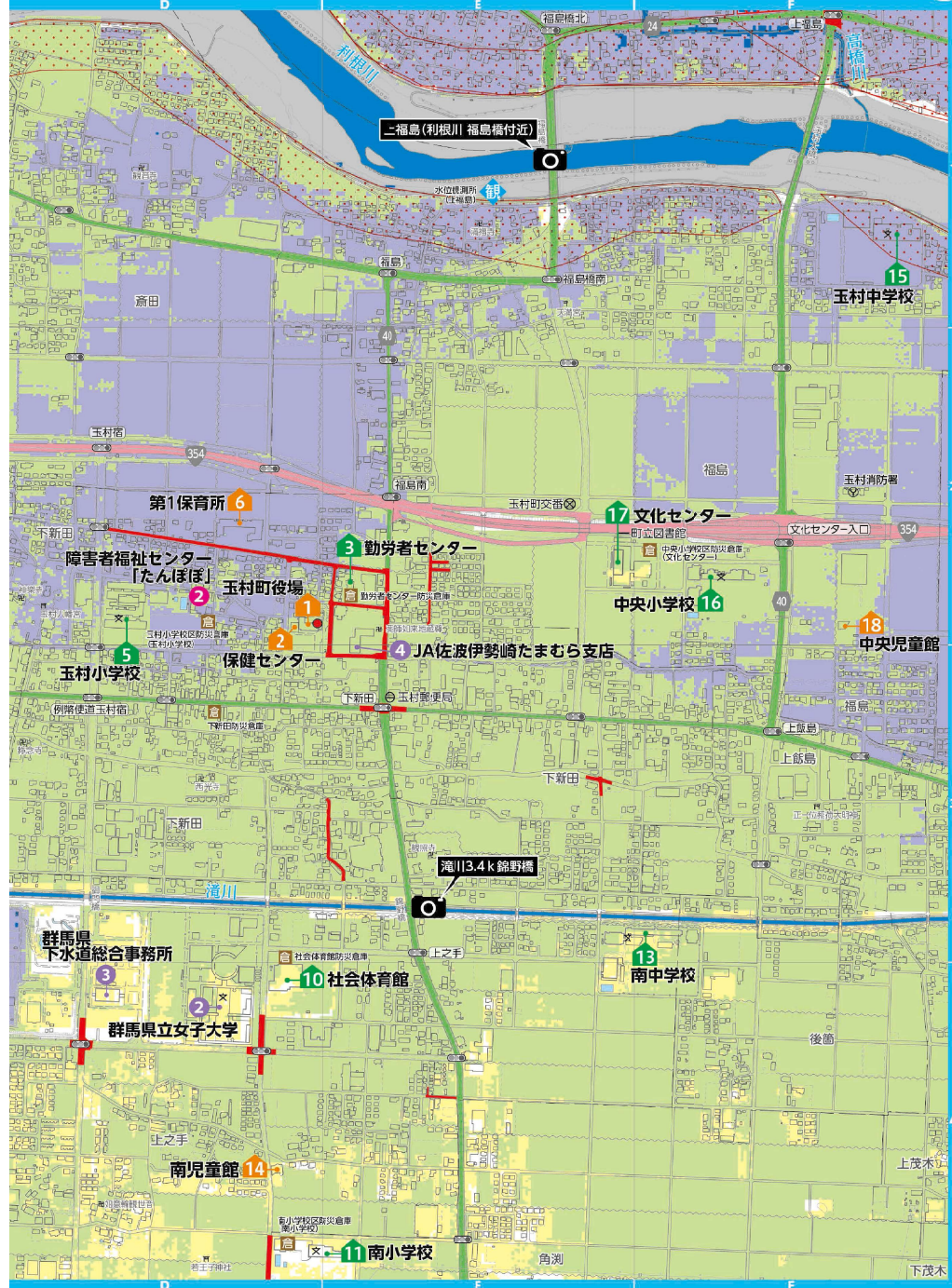
3 最大浸水想定区域図

ハザードマップ



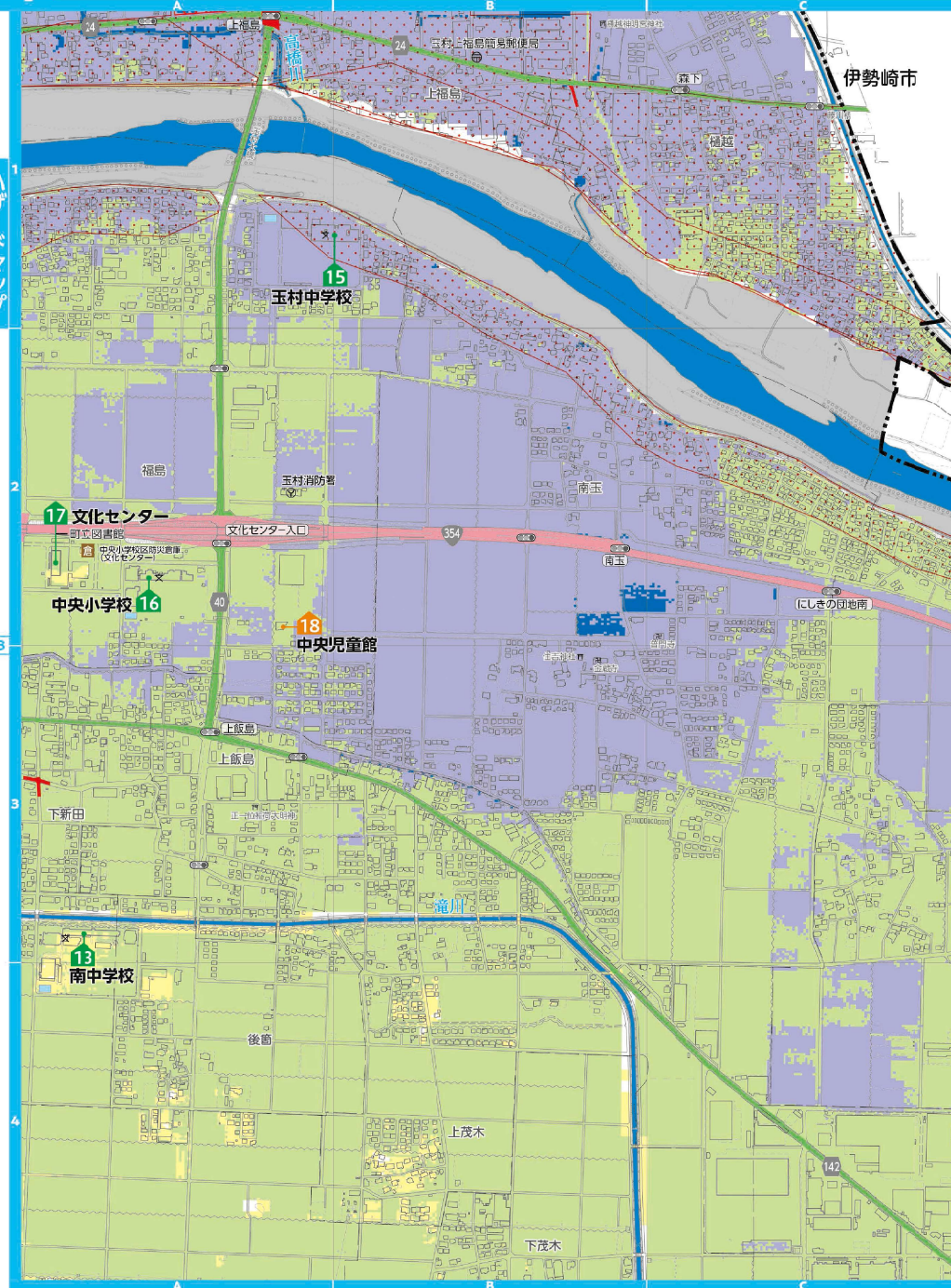
3

ハザードマップ



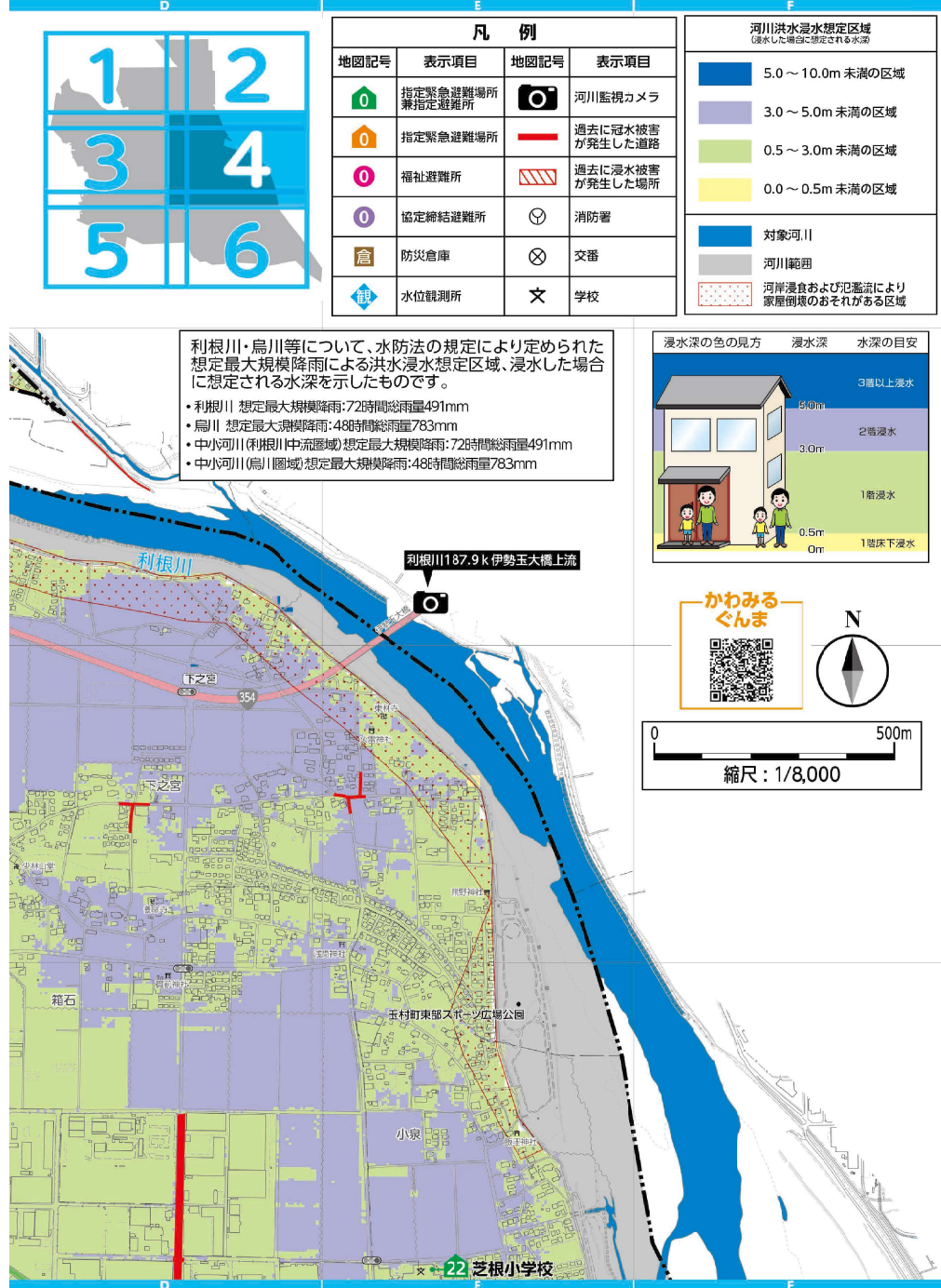
4 最大浸水想定区域図

ハザードマップ

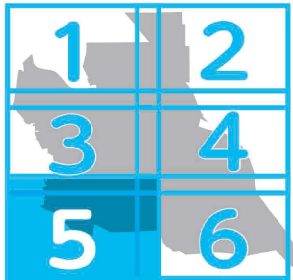


4

ハザードマップ



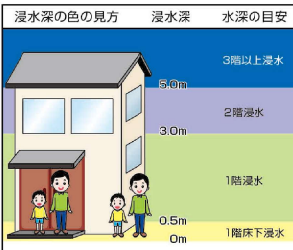
5 最大浸水想定区域図



河川洪水浸水想定区域
(浸水した場合に想定される水深)

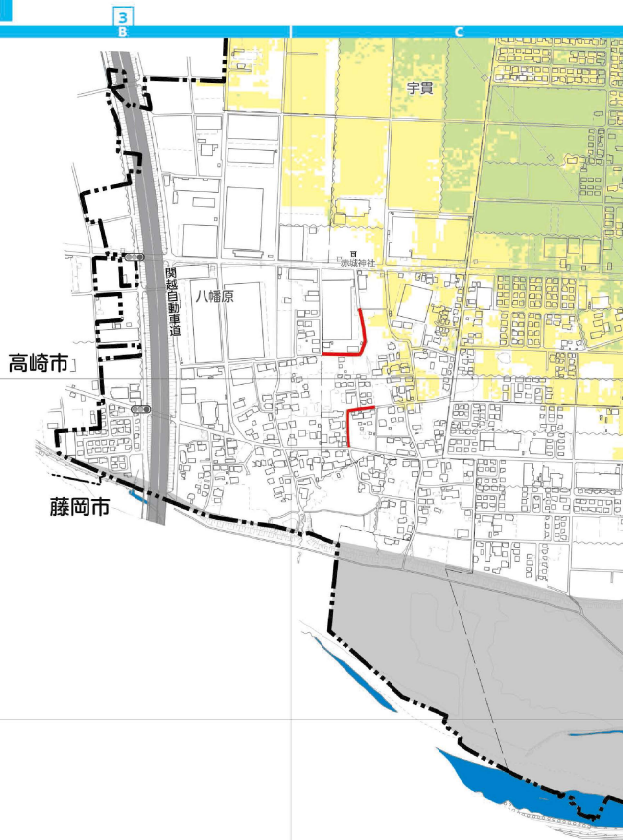
5.0 ~ 10.0m 未満の区域
3.0 ~ 5.0m 未満の区域
0.5 ~ 3.0m 未満の区域
0.0 ~ 0.5m 未満の区域

対象河川
河川範囲
河岸浸食および氾濫により 家屋倒壊のおそれがある区域



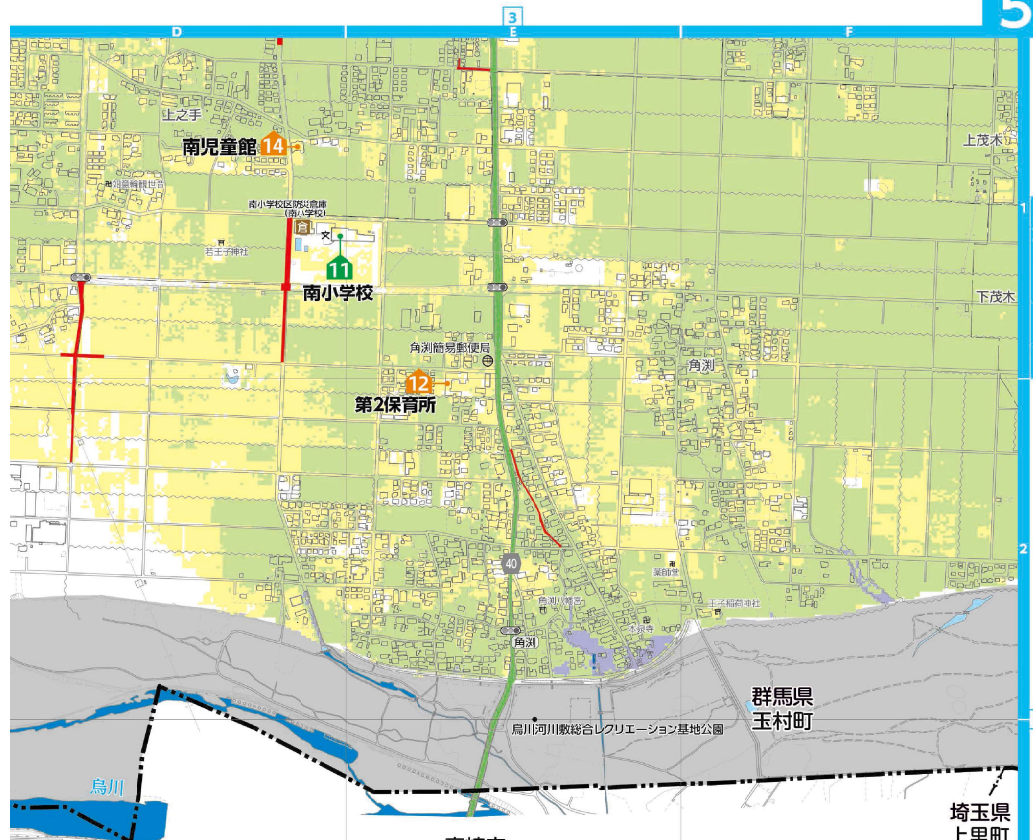
凡例

地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所 兼指定避難所		河川監視カメラ
	指定緊急避難場所		過去に冠水被害 が発生した道路
	福祉避難所		過去に浸水被害 が発生した場所
	協定締結避難所		消防署
	防災倉庫		交番
	水位観測所		学校



かわみるぐんま

縮尺：1/8,000

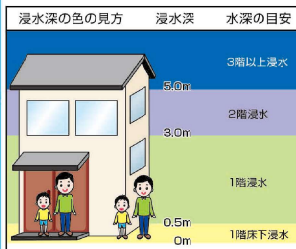
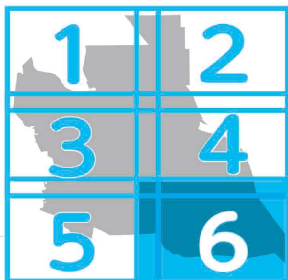
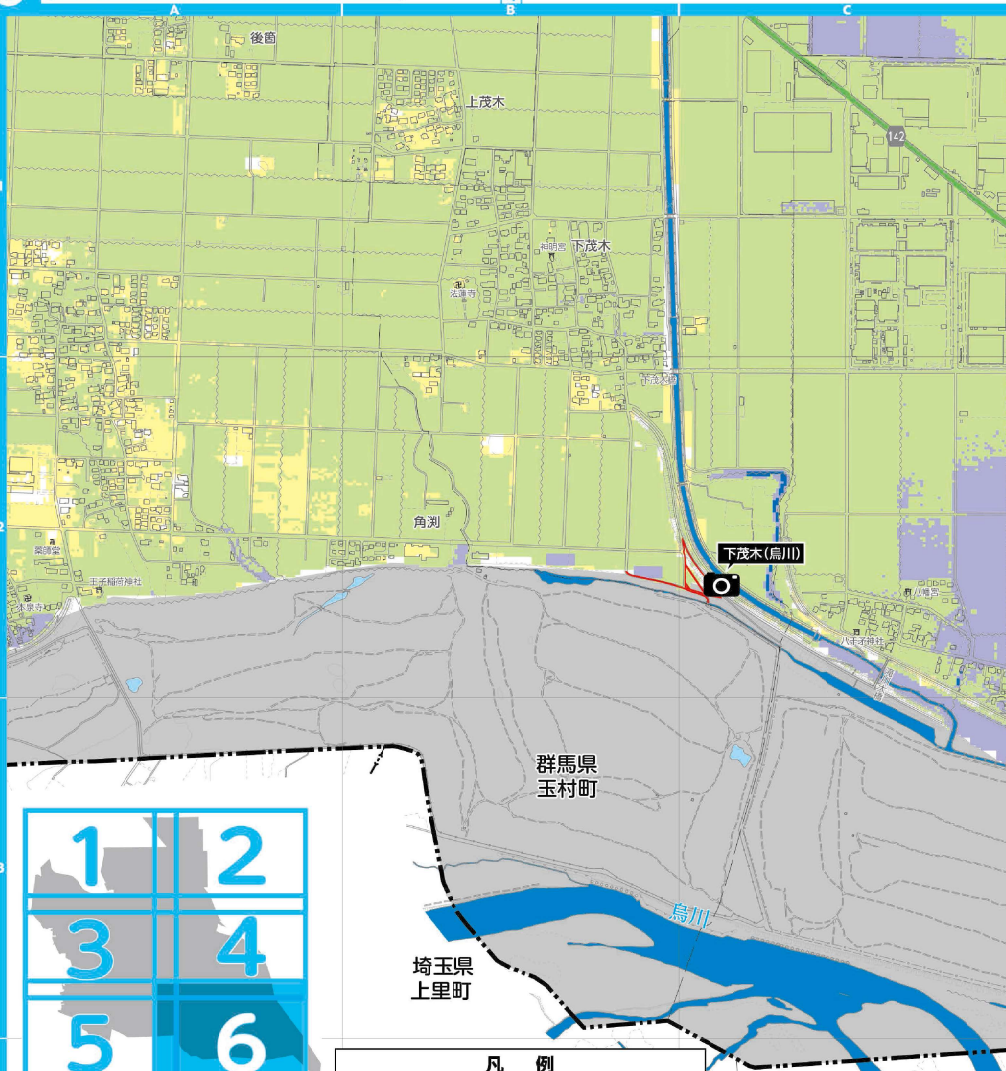


利根川・烏川等について、水防法の規定により定められた
想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合
に想定される水深を示したものです。

- 利根川 想定最大規模降雨：72時間総雨量491mm
- 烏川 想定最大規模降雨：48時間総雨量783mm
- 中小河川(利根川中流域域) 想定最大規模降雨：72時間総雨量451mm
- 中小河川(烏川圏域) 想定最大規模降雨：48時間総雨量783mm

6 最大浸水想定区域図

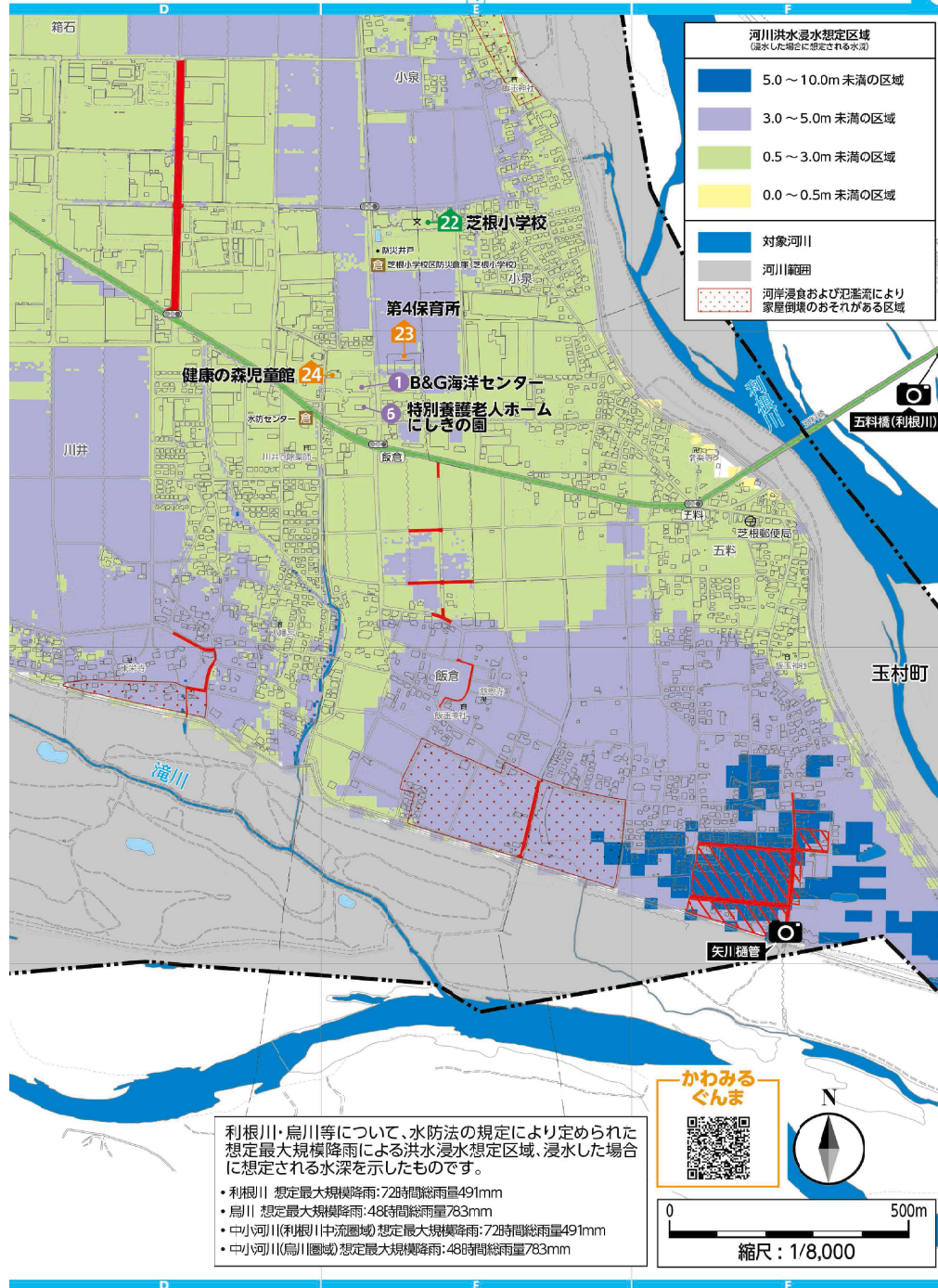
ペーパーゼンシ



凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所兼指定避難所		河川監視カメラ
	指定緊急避難場所		過去に浸水被害が発生した道路
	福祉避難所		過去に浸水被害が発生した場所
	協定締結避難所		消防署
	防災倉庫		交番
	水位観測所		学校

6

ペーパーゼンシ



河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合に想定される水深)	
	5.0～10.0m 未満の区域
	3.0～5.0m 未満の区域
	0.5～3.0m 未満の区域
	0.0～0.5m 未満の区域
	対象河川
	河川範囲
	河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

利根川・烏川等について、水防法の規定により定められた想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を示したものです。

- 利根川 想定最大規模降雨:72時間総雨量491mm
- 烏川 想定最大規模降雨:48時間総雨量783mm
- 中小河川(利根川中流圏域) 想定最大規模降雨:72時間総雨量491mm
- 中小河川(烏川圏域) 想定最大規模降雨:48時間総雨量783mm

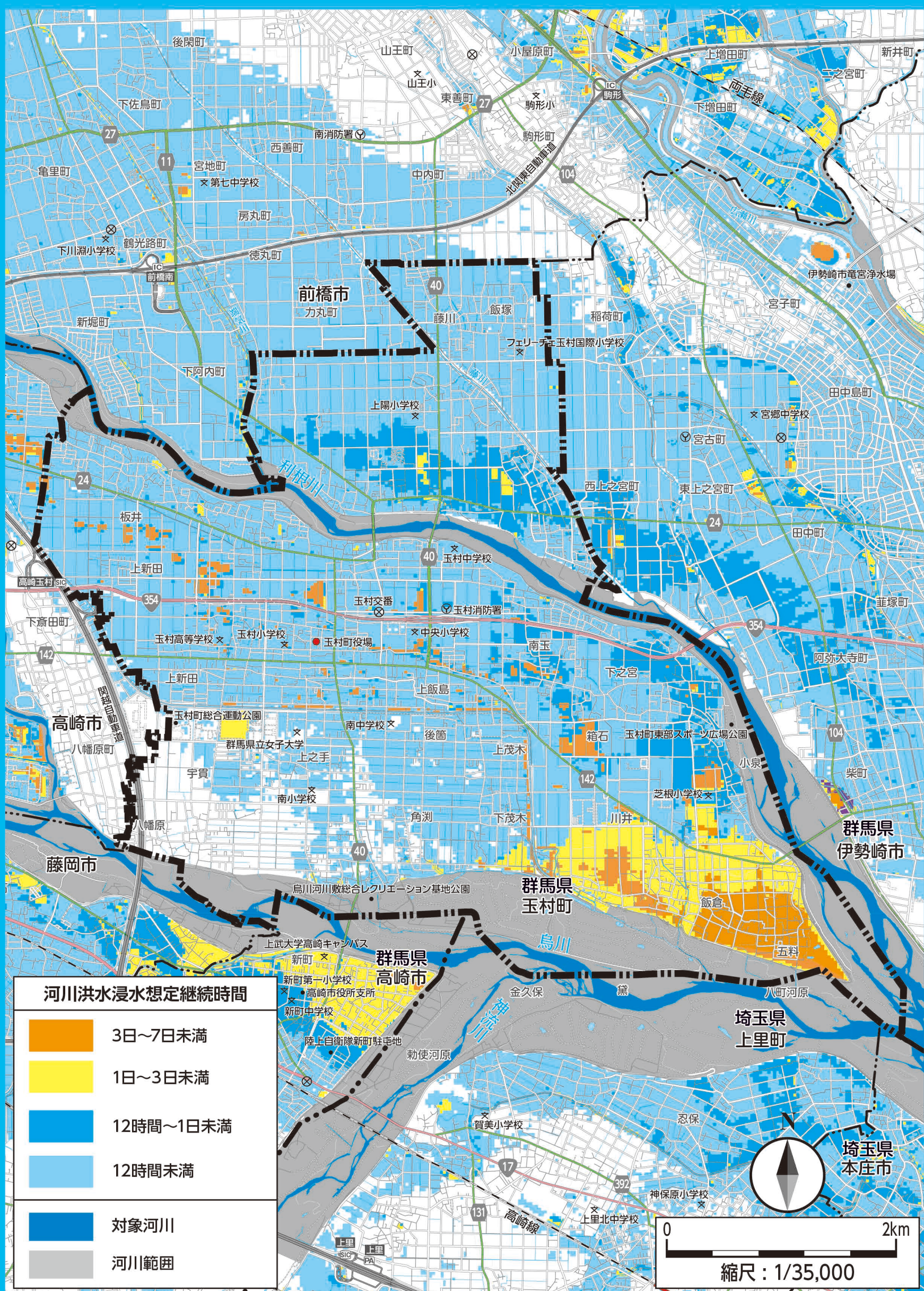
かわみるぐんま

縮尺: 1/8,000

浸水想定継続時間

(浸水深が50cmに達してからその水深を下回るまでにかかる時間を示しています。)

ハザードマップ



河川洪水浸水想定継続時間

	3日～7日未満
	1日～3日未満
	12時間～1日未満
	12時間未満
	対象河川
	河川範囲

縮尺：1/35,000

避難場所等一覧

大震災、風水害等の災害が発生したときの指定緊急避難場所(災害から一時的に難を逃れる緊急時の避難場所)および指定避難所(災害時に一定期間滞在するための施設)です。自分の地区の避難場所や避難所を確認しておきましょう。
 高齢者等避難・避難指示・緊急安全確保が発令されたときは、「メルたま」や「たまボイス」、広報車等により皆さんにお知らせしますので、町・警察署・消防署・消防団・自主防災組織(各区長)の指示に従ってください。
 ※避難場所や避難所は災害の種類や程度に応じて開設します。一斉に開設するものではありません。

 指定緊急避難場所兼指定避難所  指定緊急避難場所

指定緊急避難場所および指定避難所

No.	施設名	所在地	洪水	地震	地図座標
1	玉村町役場	下新田201	○	○	3-D-2
2	保健センター	下新田201	○	○	3-D-2
3	勤労者センター	下新田227-10	○	○	3-E-2
4	玉村高等学校	与六分14	○	○	3-C-2
5	玉村小学校	下新田99-1	○	○	3-D-2
6	第1保育所	下新田176	—	○	3-D-2
7	玉村幼稚園	板井53-2	○	○	3-C-1
8	西児童館	板井53-1	○	○	3-C-1
9	道の駅玉村宿	上新田604-1	○	○	3-B-2
10	社会体育館	上之手1517	○	○	3-D-4
11	南小学校	角淵5011	○	○	3-E-4
12	第2保育所	角淵5109	○	○	5-E-2
13	南中学校	上之手1748	○	○	3-F-3
14	南児童館	上之手2021-3	○	○	3-D-4
15	玉村中学校	福島913	—	○	3-F-1
16	中央小学校	福島401	○	○	3-F-2
17	文化センター	福島325	○	○	3-E-2
18	中央児童館	福島533-2	○	○	3-F-2
19	上陽小学校	樋越921-1	○	○	1-F-3
20	第3保育所	樋越904	—	○	1-F-3
21	上陽児童館	樋越865-2	—	○	1-F-3
22	芝根小学校(防災井戸設置)	飯倉39	○	○	6-E-1
23	第4保育所	飯倉70	○	○	6-E-2
24	健康の森児童館	飯倉59-3	○	○	6-E-2

協定締結避難所

No.	施設名	所在地	地図座標
1	B&G海洋センター	飯倉59-4	6-E-2
2	群馬県立女子大学	上之手1395-1	3-D-4
3	群馬県下水道総合事務所	上之手1846-1	3-D-4
4	JA佐波伊勢崎たまむら支店	下新田208-1	3-E-3
5	フェリーチェ玉村国際小学校	飯塚345	2-B-2
6	特別養護老人ホーム にしきの園	飯倉59	6-E-2

※洪水発生時に避難所として利用することがあります

福祉避難所

No.	施設名	所在地	地図座標
1	老人福祉センター	上福島296	1-E-4
2	障害者福祉センター「たんぽぽ」	下新田150-1	3-D-2

防災倉庫

	施設名	所在地	地図座標
倉	下新田防災倉庫	下新田610	3-D-3
倉	勤労者センター防災倉庫	下新田227-10	3-E-2
倉	社会体育館防災倉庫	上之手1517	3-D-4
倉	水防センター	川井238-1	6-D-2
倉	玉村小学校区防災倉庫(玉村小学校)	下新田99-1	3-D-2
倉	上陽小学校区防災倉庫(上陽小学校)	樋越921-1	1-F-3
倉	芝根小学校区防災倉庫(芝根小学校)	飯倉39	6-E-1
倉	中央小学校区防災倉庫(文化センター)	福島325	3-F-2
倉	南小学校区防災倉庫(南小学校)	角淵5011	3-D-4

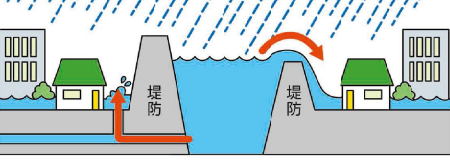
風水害対策

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことです。これらは、毎年のように全国各地に大きな被害をもたらしています。風水害から身を守るためには、さまざまな自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。



内水氾濫とは

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨水を流しきれなくなることがあり、あふれ出した雨水により、建物や土地・道路等が水に浸かってしまうことです。雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。



外水氾濫とは

河川の堤防から水があふれたり、堤防が決壊して、家屋や田畑等が浸水することです。外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み、広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。

大雨や強風は私たちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

特別警報 数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表されます。危険な区域から避難できていない方は、直ちに安全を確保しましょう。

警報 重大な災害のおそれがあるときに発表されます。

注意報 災害のおそれがあるときに発表されます。総合防災マップなどで避難行動を確認しましょう。

5段階の警戒レベル

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難の情報
5	命を守る最善の行動	緊急安全確保 (玉村町が発令)
<警戒レベル4までに必ず避難>		
4	危険な場所から全員避難	避難指示 (玉村町が発令)
3	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難 (玉村町が発令)
2	ハザードマップ等で避難方法を確認	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
1	最新情報に注意	早期注意情報 (気象庁が発表)

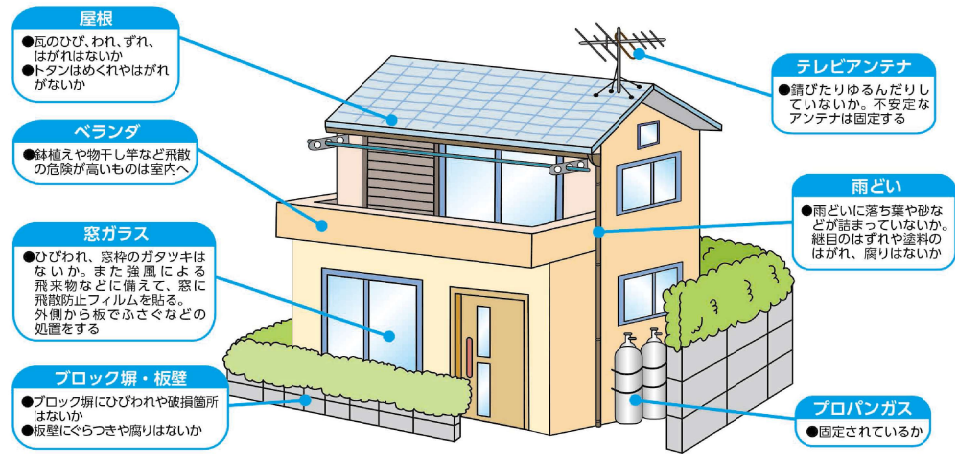


風水害対策

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

台風への備え



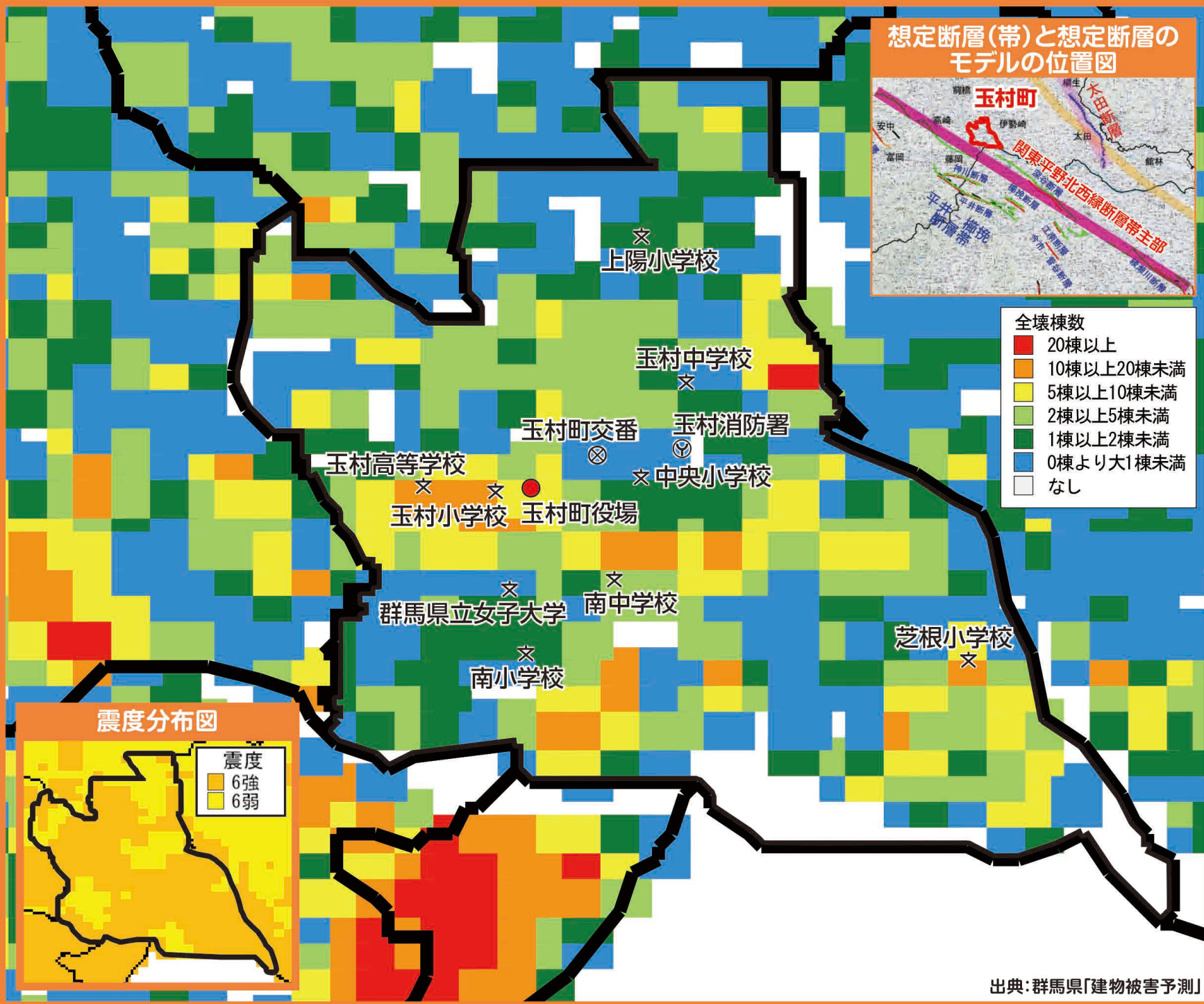
警戒レベル相当情報

	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	
	浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2相当	氾濫注意情報	—
1相当	—	—



揺れやすさマップ

関東平野北西縁断層帯主部による地震(M8.1)の場合の家屋倒壊分布図

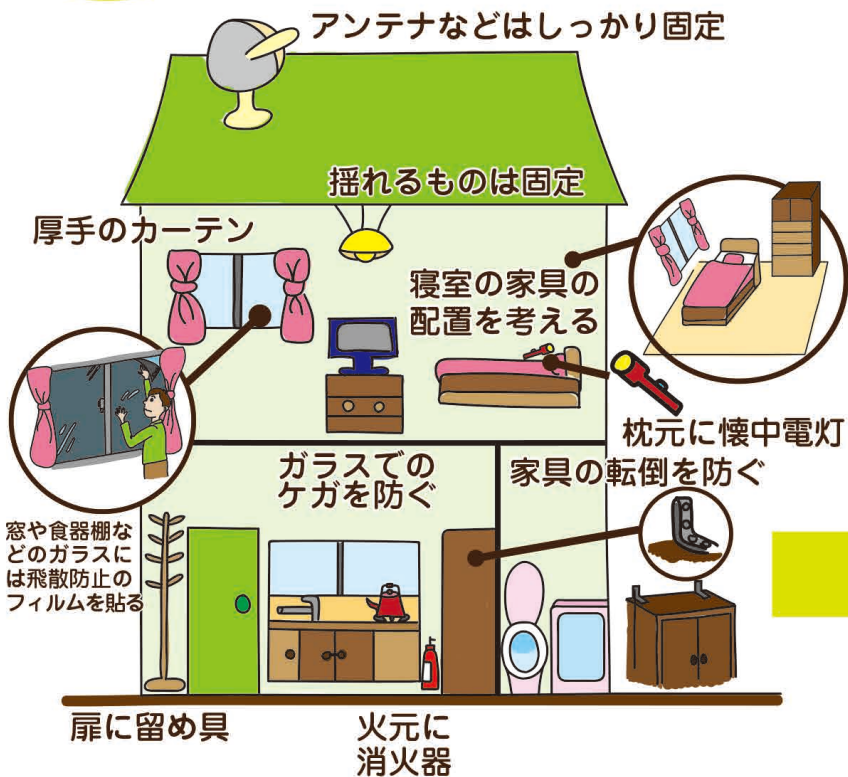


地震対策

発災前 揺れから身を守るための対策を!

発災

危険



地震対策

地震災害とは？

地震による災害は、建物倒壊、火災の発生、液状化現象などがあります。建物倒壊などによって道路が通れなくなったり、線路の安全確認により電車が動かなくなる交通障害もあります。また停電やガスの停止、水道の断水が起こる場合もあり、電話やインターネットもつながりにくくなります。

地震のときの行動は？

地震の揺れを感じた場合や緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずにまずは身の安全を確保してください。そして落ち着いてテレビやラジオ、携帯電話やスマートフォンなどで正確な情報の把握に努めましょう。

地震発生

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

最初の大きな揺れは約1分間

- あわてずに身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認する 火が出たら、落ち着いて初期消火する
- 家族の安全を確認する 倒れた家具の下敷きになっていないか確認する
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意する



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声を掛けよう

- 要配慮者の安全を確保する
- 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか確認する
- ケガ人はいないか確認する

出火防止
初期消火

- 消火器を使う
- 余震に注意する
- 漏電・ガス漏れに注意する 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める



テレビ・スマートフォン・ラジオなどで正しい情報を確認する

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認する
- デマにまどわされないようにする
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動をする

- 水、食料は蓄えているものでまかなう
- 災害・被害情報を収集する
- 壊れた家に入らない
- 近くの人を救出・救護する



屋内にいた場合

家の中

- 頭を保護しながら丈夫な机の下などに隠れる
- 火の確認はすみやかにする(ガスの元栓の処置も忘れずに)
- 高齢者や障がい者、乳幼児など要配慮者の安全を確保する
- 裸足で歩き回らないようにする(ガラスの破片などでケガをしないため)

大規模店舗や集客施設にいるとき

- つり下がっている照明などの下から避難する
- あわてて出口や階段に殺到しない

エレベーターに乗っているとき

- 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる

屋外にいた場合

路上

- ブロック塀や自動販売機には近づかず、ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意する
- 頭をかばんなどで保護する

車を運転中

- あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず徐々に速度を落とす
- 避難するときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない
- 車検証などの貴重品を忘れずに持ち出す

山や崖付近にいるとき

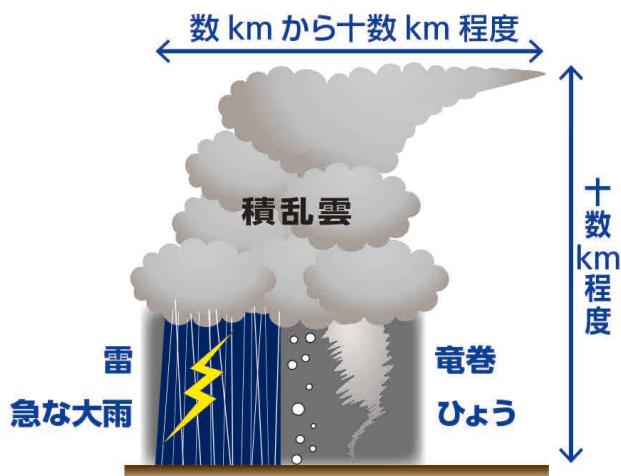
- 落石や崖崩れに注意し、できるだけその場から離れる



突風・大雪対策

突風対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。



積乱雲が近づくサイン

真っ黒い雲が近づいてきた

急に暗くなった

雷の音が聞こえてきた

急に冷たい風が吹いてきた

大粒の雨やひょうが降り出した

「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます!

屋内では

- ・窓から離れる
- ・窓やカーテンを閉める
- ・丈夫な机やテーブルの下に入って、身を小さくして頭を守る
- ・家の1階の窓の少ない部屋に移動する

屋外では

- ・頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする
- ・物置や車庫、プレハブの中には入らない
- ・シャッターを閉める
- ・電柱や太い木には近づかない

竜巻に遭遇した人からは次のような声を聞きます。
このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

- ・雲の底から地上に伸びる漏斗(ろうと)状の雲を見た。
- ・飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。
- ・ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。
- ・気圧の変化で耳に異常を感じた。

竜巻注意情報(気象庁)



大雪対策

大雪災害が発生した場合には公助だけでは対応が困難なことから、**自助・共助での取り組みが非常に重要**になります。まずは、家庭内や地域で大雪時の対応について話し合い、あらかじめ大雪に備えましょう。

除雪作業の注意点

作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。自助・共助の精神に基づき自宅付近の除雪を行うなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください。ただし、個人敷地内も含め、除雪した雪は事故やケガの元になりますので道路に出さないでください。

落雪に注意しましょう

屋根の雪が解け始めると、大きなかたまりになって落下する場合があります。可能な限り屋根の雪を下ろすか、下に物を置かないようにしましょう。



備蓄をしましょう

積雪により外出できなくなる場合に備え、水、食料、灯油等の備蓄を確認しましょう。普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です。(最低3日分・推奨7日分)



外出は控えましょう

積雪時には不要不急の外出は極力控えてください。



地域で助け合いましょう

近所にひとり暮らしの高齢者や障がいのある方がいる場合は、地域で協力して助け合いましょう。



非常時持出品・備蓄品

非常時持出品(例)

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

携帯電話・スマートフォン



- 携帯電話・スマートフォン
- 携帯電話・スマートフォンの充電器
- モバイルバッテリー

救急医療品



- 救急セット
- 常備薬(持病の薬など)

感染症対策

- マスク
- 手指の消毒液
- 体温計

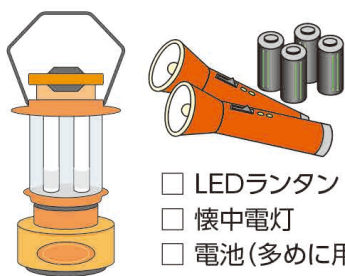
非常用食品



火を通さずに食べられるもの

- 飲料水
- 缶詰
- 飴・チョコ

ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

その他



- 現金(小銭多めに)
- 着替え
- ウェットティッシュ
- 歯ブラシ
- 上ばき

- タオル
- ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- 割りばし

- 紙皿・紙コップ
- ビニール袋
- 耳栓・アイマスク
- 簡易トイレ

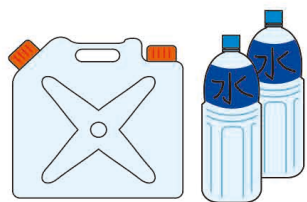
各家庭に必要なもの

- 赤ちゃん用品(ミルク・離乳食・おむつなど)
- 生理用品
- コンタクトレンズ・めがね
- 入れ歯・補聴器
- リュックサック

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンク

非常用食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料
- ドライフーズ・飴・チョコ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品
- 歯みがきセット・ひげそり

ローリングストックで備えよう

常に一定量の食品などを家に備蓄しておく方法です。普段から少し多めに食品などを購入して備えておき、古いものから消費して、減った分だけ補充します。備蓄品を無駄にせず、災害時にも普段から食べ慣れた食品を非常食として食べることができます。



ペットの同行避難

ペットの同行避難は各避難所に定められたルールに従いましょう。避難者がいるスペースから離れ、決められた場所につないだり、持参したケージ(おり)等に入れたりするなど、飼い主が責任を持って世話をしましょう。

災害時の心構え

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人などさまざまな人がいるので、周りの人に配慮しましょう。マイクロチップを装着し、飼い主情報を登録しておきましょう。

しつけと健康管理

- ケージやキャリーバッグ等に慣れさせておき、決められた場所で排泄ができるようにしておきましょう。予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。

避難用具・備蓄品

- 食料、リードやキャリーバッグ等、避難先での飼育に必要なものをあらかじめ用意しておき、持参しましょう。ペット用の避難物資が届くまでには時間がかかる場合があるので5日分(できれば7日以上)は用意しておきましょう。